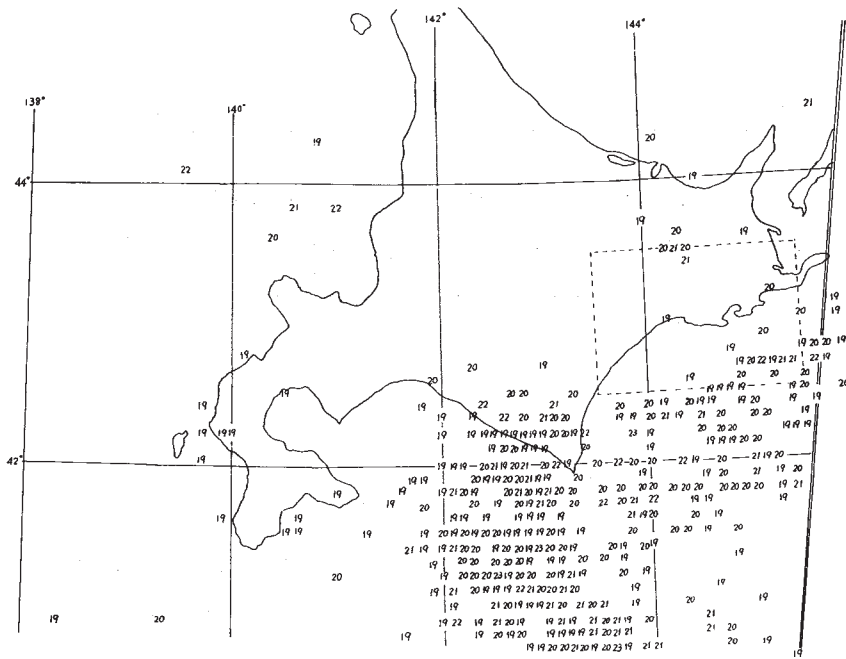


6 - 3 特定観測地域・観測強化地域の地震の放出エネルギー分布図
Distribution of the Energy released by the Earthquakes
in and near Areas for Special Observation and Intensified
Observation from 1926 to 1970.

気象庁 地震活動検測センター
SAMC, Japan Meteorological Agency

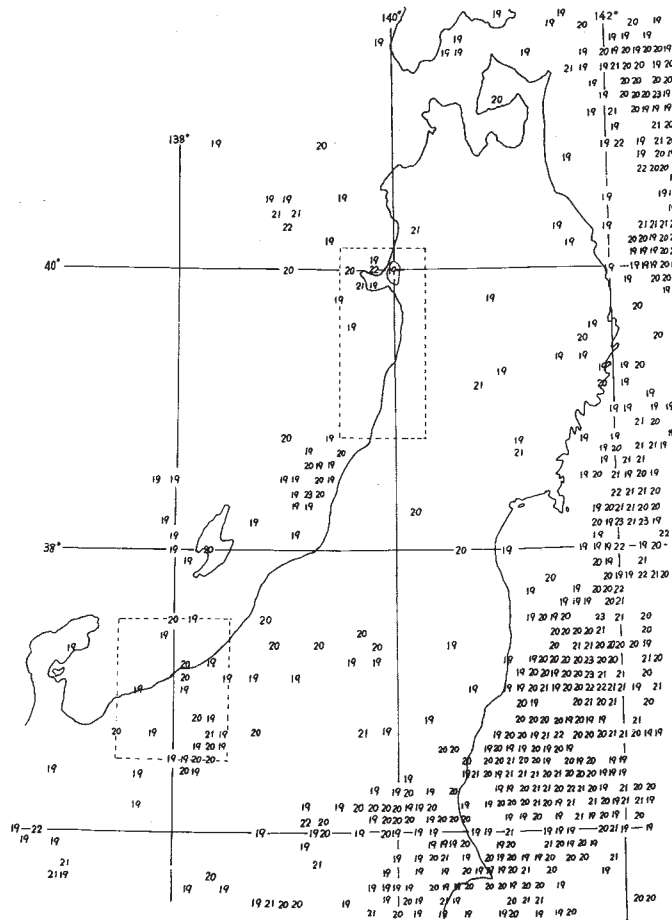
地震予知体制の中の戦略として、全国的な視野で大地震が歴史時代に何回か起こった記録があり、しかも近年起こっていない地域とか、国として重要な地域など8箇所が特定観測地域に選定され、関東南部地域は最近地殻変動が観測されたということが観測強化地域になっている。気象庁では古くから日本付近に起こった地震については震源のカタログを公表しており、日本ばかりでなく世界的にもこの資料が活用されている。今回は1926年以後の震源の深さ60kmより浅い地震について、このような資料を電計集計したものから地震の放出エネルギーを計算し、地震発生の分布とその変動を調べ、地震活動を監視する資料とする計画である。第1, 2, 3, 4図はそこから地震予知連絡会で決定された特定観測地域、観測強化地域の周辺の地震活動を緯度・経度共0.1度の網目で計算した1926年 - 1970年間の地震の放出エネルギー（エルグ単位）の $\log E$ の分布である。単位を19以上としたのは、この間の地震資料から求めた $\log N(M) = a - bM$ の関係式から大体直線性のあるM4.9以上を採用したためである。それ以下のものを採用すると、地震活動の地域性というよりは、観測のための誤差が大きくなるからである。

（担当 関谷 溥）

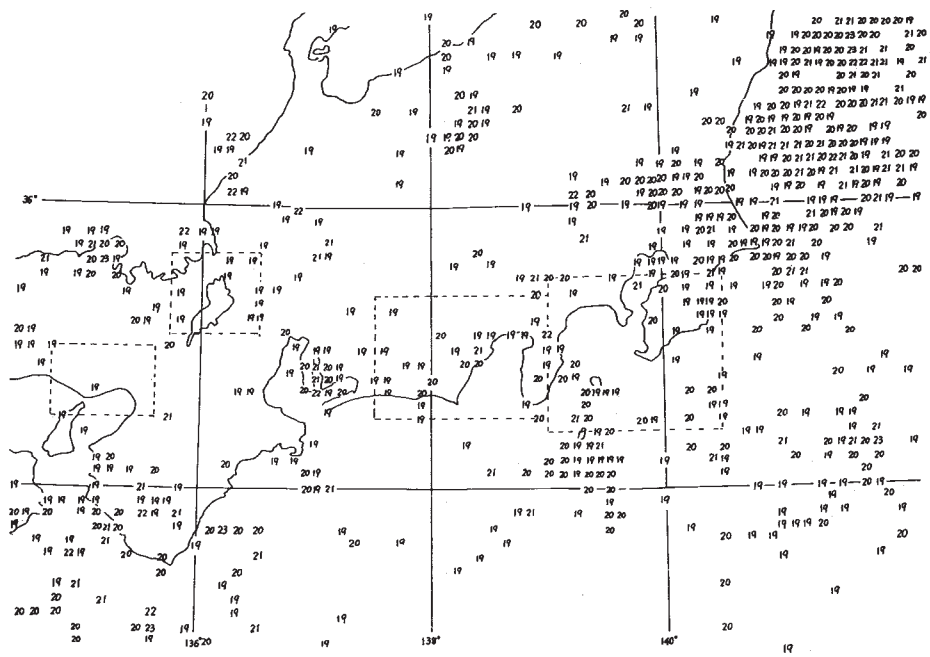


第1図 特定地域付近の地震の放出エネルギー分布図 (1926 - 1970)

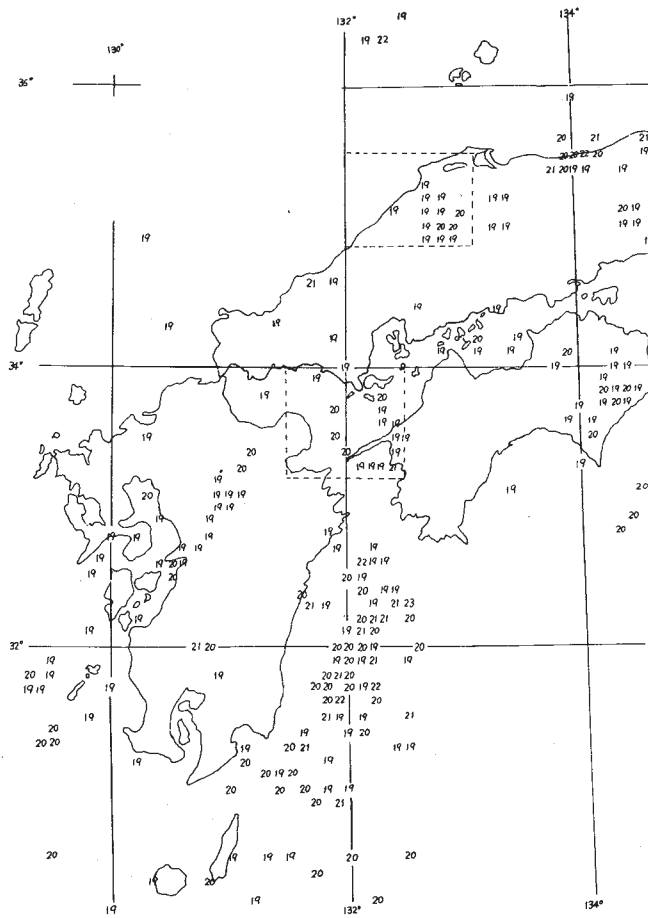
Fig. 1 Distribution of energy released by the earthquake in and near the areas for special observation



第2図 Fig. 2 (continued)



第3図 Fig. 3 (continued)



第4図 Fig. 4 (continued)